

2019年11月14日

各 位

会 社 名 マーチャント・バンカーズ株式会社
 代表取締役社長兼 CEO 一 木 茂
 (コード3121 東証2部)
 問合せ先 取締役 CFO 兼財務経理部長 高 崎 正 年
 (TEL 03-5224-4900)

第2四半期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2019年5月10日に公表しました2020年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりご報告申し上げます。

記

1. 2020年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値と実績値との差異 (2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 差異の内容

	売上高 百万円	営業利益 百万円	経常利益 百万円	親会社株主に 帰属する 四半期純利益 百万円	1株当たり 四半期純利益 円 銭
前回発表予想(A)	950	85	23	13	0円47銭
実績値(B)	896	35	△20	△21	△0円79銭
増減額(B-A)	△53	△49	△43	△34	
増減率	△5.6%	△58.8%	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	897	17	△32	275	9円89銭

(2) 差異の理由

当上半期におきましては、売上高 950 百万円を見込んでおりましたが、896 百万円と、53 百万円の未達となり、この売上高未達が、各段階利益における予想数値と実績値との差異要因となりました。

当社は、業績拡大のための具体的施策として、

- ① 賃貸用不動産の取得
- ② 収益源の多様化（仲介やアドバイザーなどによる手数料収入の確保）

に取り組んでいるところであります。

「①賃貸用不動産の取得」につきまして、当上半期は、5件の物件取得を見込んでおりましたが、条件にあった物件が確保できず、1件の物件取得にとどまり、また、「②収益源の多様化」につきまして、不動産仲介やブロックチェーン関連のアドバイザー手数料により、当上半期におきまして、25百万円の売上を見込んでおりましたところ、特記すべき実績が上げられなかったことが、冒頭の売上高並びに各段階利益の差異要因であります。下半期におきましては、引き続き、積極的に賃貸用不動産取得を進めるとともに、不動産仲介やアドバイザー手数料など、あらゆる収益機会を追求し、当上半期の遅れをカバーし、通期業績見込みを達成するものいたします。

以 上